

令和5年度 第1回東京都北区環境審議会 議事要旨

日時：令和6年1月29日（月）14:00～15:30

会場：北区役所 第二委員会室（第一庁舎4階）

【出席者】

<委員>

会 長：	小川 芳樹	委員					
副会長：	品川 明	委員					
	村上 公哉	委員	益永 茂樹	委員	原 茂樹	委員	
	檜垣 昌子	委員	原 芳子	委員	成川 友英	委員	
	大蔵 博	委員	大沢 たかし	委員	いながき 浩	委員	
	竹田 ひろし	委員	花見 たかし	委員			

（欠席）大貫 新一 委員 小山 文大 委員

<事務局>

雲出 直子 生活環境部長 菅原 満理子 生活環境部環境課長 環境課環境政策係

【次 第】

- 1 開会
- 2 委員・事務局紹介
- 3 議事
 - （1）会長・副会長選出
- 4 報告事項
 - （1）「北区環境基本計画2015」の進捗状況について
 - （2）「北区緑の基本計画2020」の施策目標の進捗状況報告について
 - （3）その他
- 5 閉会

【傍聴人】 0名

【配布資料】

- 次第
- 委員名簿
- 座席表
- 資料1 「北区の環境（令和4年度実績）」（抜粋）
- 資料2 「北区緑の基本計画2020」施策目標の進捗状況報告
- 資料3 「北区緑の基本計画2020」概要版
- 参考資料1 東京都北区環境基本条例
- 参考資料2 東京都北区環境審議会規則

【議事要旨】

1. 開会

2. 委員・事務局紹介

3. 議事

(1) 会長・副会長選出

○委員

- ・当審議会の会長の選出については、これまでも会長を務めていただいた小川芳樹委員に引き続きお願いしたい。

○委員一同

- ・異議なし

○会長

- ・副会長については、これまでに引き続いて品川明委員にお願いしたい。

○委員一同

- ・異議なし

4. 報告事項

(1) 「北区環境基本計画 2015」の進捗状況について

〈説明資料〉

- ・資料1 「北区の環境（令和4年度実績）」（抜粋）

○事務局 資料に基づき説明

〈質疑応答〉

○委員

- ・資料5ページ、基本方針4の環境リーダー養成講座の実施について、講座回数・延べ参加者数の記載はあるが、実際にリーダーになった人はいるか。

○事務局

- ・講習を受けて、実際に活動している方が4名いる。

○委員

- ・資料4ページ、基本方針2の②で、区有施設における非常用発電機の備蓄数の記載があるが、どこに備蓄されているものか。

○事務局

- ・小・中学校をはじめとして、区内の避難所としての施設に備蓄されている非常用発電機の数を目標として掲げている。

○委員

- ・区民がきちんと知るべき内容である。どのように区民周知がされるのか。

○事務局

- ・防災・危機管理課と連携しながら、区民へしっかり伝えていきたい。また、北区環境ポータルサイトを活用し、気候変動へどう立ち向かっていくのかといったところからも丁寧に発信していきたい。

○会長

- ・ホームページの活用は考えているのか。

○事務局

- ・ポータルサイトは区ホームページとは別で、環境に特化したものである。区ホームページは分野も広く階層も深くなっているため、特定の情報を区民が探しにくい状況である。環境に関する情報について、アクセスしたい情報にたどり着きやすいポータルサイトにしていく。

○委員

- ・携帯電話やパソコンの普及にしたがって、災害時に携帯電話が繋がらないといったことや、子どもの視力低下等がきかれる。同時に、電磁波の健康被害も様々なかたちで発生している。新計画の項目には入っていないが、新しい環境社会において、項目のひとつに加えられるのではないかと。

○事務局

- ・電磁波についてはこれまで環境課で取り上げてこなかったが、生じる健康被害など、関係他部署と連携しながら研究していきたい。

○会長

- ・非常用発電機の備蓄数について、令和4年度実績は資料の2ページ目と4ページ目で数字が一致しているが、2ページ目で平成25年度実績は113機、4ページ目で平成28年度実績が185機となっている。数値に誤りはないか。

○事務局

- ・所管に照会した結果を記録している。

○委員

- ・資料5ページ、基本方針3の①、緑被率が減少している理由はなにか。
- ・資料5ページ、基本方針3の②、雨水浸透施設等の設置支援件数で、令和4年度実績が0件の理由はなにか。

○事務局

- ・緑被率の減少理由としては、緑被率を算出する上空写真において、大規模工事等で囲われてしまう等で一時的に減少したと推測される。
- ・雨水浸透施設等の設置支援件数は、ここ数年0件が続いている状況である。設置が大規模工事となってしまうので、一般家庭で取り組めないのではないかと所管では分析している。

○委員

- ・費用の助成、区民周知など要望していきたい。

○委員

- ・PDCAサイクルの部分だが、具体的な目標の項目において数値ではなく「維持」「増加」が多い。達成基準や基準年度などについて確認をしたい。
- ・資料2ページ、基本目標3の①、省エネ・再エネ設備導入技術講習の令和4年度実績が「未実施」で、具体的な目標が「現状維持」となっている。未実施という現状を維持するようにみえてしまう。
- ・資料5ページ、基本方針3の③、地域版シェアマップの作成については重要であると思う。令和4年度は検討中となっているが、迅速な対応をお願いしたい。

○事務局

- ・資料に記載の「具体的な目標」は、環境基本計画2015策定時に設定した令和6年度に向けての目標が記載されている。今回は、それに対する令和4年度の実績をまとめている。環境基本計画2015は計画期間満了を待たずに昨年度改定した。通常であれば各項目についてPDCAサイクルすべきだが、新計画となって目標設定が変わっている部分もある。実際には新計画の目標に向かって取組んでい

るところである。

- ・省エネ・再エネ設備導入技術講習については、基本計画 2015 策定時は区主催で実施していたが、コロナ禍も影響し令和 4 年度実績としては未実施となっている。都で実施している同様の事業等を紹介するかたちで推進できればと考えている。
- ・地域版シェアマップについてはご指摘のとおりである。事務局としては、次年度以降もクールスポットである涼みどころの数を増やしていきたいと考えている。北区環境ポータルサイト等情報媒体を活用しながら認知度を上げていく。

○会長

- ・次回審議会では、新計画における進捗状況報告ということで良いか。

○事務局

- ・そのとおり。

○会長

- ・単年度実績において「未実施」というものはあると思うが、計画期間の終盤において「構築中」「検討中」など途中段階のような実績がみられる。環境基本計画 2015 の最終のまとめとして、策定時の目標に対し約 10 年間取り組んだ結果、どのように進めることができたのかという整理をすることが必要である。

○事務局

- ・約 10 年間取り組んできた環境基本計画 2015 について、達成度合い等を取りまとめたかたちで整理していきたい。さらに「未実施」「検討中」となっている項目など、新計画に引き継いでいるものもつながりも含めて分かりやすいように取りまとめていきたいと考えている。

○委員

- ・資料「北区の環境」について、西暦と和暦が混在している。統一できるか。

○事務局

- ・今後併記する。

(2) 「北区緑の基本計画 2020」の施策目標の進捗状況報告について

<説明資料>

- ・資料 2 「北区緑の基本計画 2020」施策目標の進捗状況報告
- ・資料 3 「北区緑の基本計画 2020」概要版

○事務局 資料に基づき説明

<質疑応答>

○委員

- ・みどりの協定、緑化推進モデル地区について、指定年数はあるか。

○事務局

- ・5 年間という規定がある。

○委員

- ・緑化推進モデル地区に指定された場合、苗の供給以外に区の支援は何かあるか。

○事務局

- ・苗の供給以外には行っていない。
 - ・美化ボランティアには傷害保険料の負担に関する支援を行っている。
- 委員
- ・地区指定の条件は何か。
- 事務局
- ・緑被率が低い地域を指定している。
- 委員
- ・北区は飛鳥山から赤羽台にかけて台地が広がっている。大型の企業の屋上や河川、公園、区営都営住宅等を重点的に行ったほうがよい。
- 事務局
- ・緑被率を上げていくことは難しいが、区としては緑豊かなまちづくりを進めていく。
- 委員
- ・資料2の1ページ、(2)の雨水浸透施設の推進について、環境基本計画2015の議論においては実績が0件ではなかったか。
- 事務局
- ・先ほどの0件という実績は個人が対象のものである。こちらでお示ししている件数は、敷地面積500㎡を超える大規模施設の実績値である。
- 副会長
- ・北区環境リーダー登録者数4名は延べ人数か。
- 事務局
- ・令和3年度以降の登録者数が4名である。
- 副会長
- ・少ないが、増加させるための施策は検討しているか。
- 事務局
- ・講習者数は一定程度いるが、登録となるとハードルが高いようである。負担のないかたちでのご案内に努めている。
- 副会長
- ・ジュニア環境リーダーは何名いるのか。
- 事務局
- ・年度ごとに、1つの学校を対象に実施しているものである。令和3・4年度は明桜中学校、令和5年度は十条富士見中学校で実施している。
- 副会長
- ・小学校での緑化など、植物と親しむという視点で学校を巻き込むと、より良いリーダー育成ができる。教育委員会には審議会に参加していただくなど対応してほしい。
- 事務局
- ・学校に声かけしていくことは効果的であると考えている。教育委員会と可能な範囲で連携を図っていく。
- 委員
- ・環境リーダーになる条件として、家政大・自然ふれあい情報館両方の講座を修了しないといけない。条件を変えればリーダー登録者も増えるのではないか。

○事務局

- ・講座を開催する立場を学ぶという講座内容であるため、やや固い内容となっている。意見をふまえ、検討する。

○委員

- ・「北区緑の基本計画 2020」の施策にはどのくらいの予算が計上されているのか。

○事務局

- ・環境課の予算だけでなく、公園緑地の整備など大規模なものもある。また、進捗にしたがって流動的に動くこともあるので、近い数字というのもお示しは難しい。

○会長

- ・決算額なら示せるか。

○事務局

- ・決算額ならお示しできる。

○委員

- ・「北区緑の基本計画 2020」における生物多様性地域戦略は、2010 年の生物多様性条約締約国会議で採択された愛知目標がベースとなっている。本来 2010 年の後継目標が 2020 年に採択される予定だったが、実際は 2022 年 12 月に後継目標となる「昆明・モンリオール生物多様性枠組」が採択された。それを受けて国の方では 2023 年 3 月に国家戦略を改定した。生物多様性基本法では、都道府県・市町村は、国家戦略を基本として地域戦略を定めるよう努めなければならないとしている。都は 2023 年 4 月に改定している。地域戦略策定は努力義務ではあるが、区も本来は改定すべきである。
- ・陸と海をそれぞれ 30%以上保全する「30by30 (サーティ・バイ・サーティ)」という目標達成のために、国で「自然共生サイト」の認定が行われている。民間だけが申請するものでなく、自治体も申請可能であるので、北区もぜひ申請をされた方がよい。赤羽自然観察公園、自然ふれあい情報館の自然園、北区・子どもの水辺、豊島五丁目荒川緑地が対象になるのではないかと思う。

○事務局

- ・他自治体の動向等もふまえて内部で検討する。

○副会長

- ・資料 3 の 7 ページ、緑を保全する施策（3）生物多様性の保全と回復における施策目標において、「生物多様性」の認知度が 2019 年度で 69.7%、2029 年度で 71.7%となっている。2%というわずかな数字目標なので、検討した方がよい。
- ・資料 3 の 9 ページ、緑とのふれあいの場と機会を広げる施策（2）環境学習の推進と担い手の育成における施策目標において、区民意識調査における「緑や自然環境に関する体験学習などの取組み」への満足度が 2019 年度で 14.7%、2029 年度で 16.7%と目標設定が低い。こちらも数値を上げた方がよい。

○事務局

- ・北区環境ポータルサイトも構築されるので、力を入れて実施していく。

○会長

- ・区民意識調査の頻度を 10 年に 1 回でなく、中間の 5 年に 1 度程度の頻度で実施してはどうか。

○事務局

- ・事務局としては実施したい意向があったが、予算の兼ね合いもある。時機をとらえて、実施してい

きたいと考える。

○会長

・資料2の1ページ、保護樹木数について、減少しているのはなぜか。

○事務局

・申出による指定解除があった。指定解除理由としては、樹木自体の立ち枯れや道路拡幅に伴うものである。

○会長

・資料2の2・3ページ、(3)まちなかの緑化の推進で、生垣助成にとる助成総延長や緑化面積について10年後の目標が示されているが、ともに1/3程度の実績値となっている。目標と実績にギャップがあるので、今後目標値に近づけるために、施策等は検討しているのか。

○事務局

・検討はしているが、生垣自体が減ってきている状況で伸び悩んでいるという点もある。緑化面積についても、効果的な広報等を研究し周知に努めていく。

(3) その他

<説明要旨>

○事務局

・令和5年度の開催予定は今回のみ。東京都環境影響評価条例に基づく環境影響評価の対象となった場合は開催する。

<質疑応答>

○委員

・環境影響評価の具体的な対象想定はあるか。

○事務局

・現状ない。

○委員

・令和6年度も予定は1回か。

○事務局

・計画の進捗管理のため必ず1回は実施する。また、専門部会の進捗状況によって別途開催する。

○会長

・各計画の見直しや改定などの審議については、しばらくないということによいか。

○事務局

・その予定である。地球温暖化対策地域推進計画・気候変動適応計画を含む環境基本計画2023については、およそ5年後、中間の見直しのタイミングで大きく動く。あわせて緑の基本計画2020についても、2020年の10年後ということで、同じような時期になるかもしれないがご議論いただく。

○会長

・緑の基本計画2020については10年後ではなくて、5年後がもうすぐなので、その中間の時期でしっかりチェックしていただき、議論できればと考える。

○委員

・先刻も申し上げたが、生物多様性地域戦略の改定についても、努力目標規定ではあるが古い国家戦

略に基づいたものとなってしまっているので、検討をしたほうがよい。

○事務局

- ・他自治体の動向などもふくめて検討する。

5. 閉会

以上